



至福の時 いしかわじゅん

自由業者の中で一番紙を大量に使うのは、もちろん漫画家だ。紙には時々お世話になっているのだ。

真っ白い原稿用紙を、カリカリと線で埋めていくのは楽しい。どんどん湧き上がってくるものをペンとインクで物語に変えていくのは、なにもにも代え難い至福の行為だったのだ。一番苦しいころには、今考えたアイデアを描いていると、もう次の週のアイデアが浮かんで来て、あまりの楽しさに笑いながら描いていた。今ではそれほどはなくなっちゃったが、やはり描くのは楽しい。でも、そうじゃない時もある。いつでもずっと限りなく同じように楽しいわけじゃない。

漫画家になって10年ほど経ったころ、ぼくはいつの間にか、原稿を描くのが辛くなってきたことに気づいたのだ。アイデアが尽きたからではない。机の前に座るのが辛いのだ。それ以前に、出勤するの辛いのだ。

ぼくはそのころ、ギャグ漫画を主に描いていたのだが、ギャグ漫画家は10年ぐらいはいたい壊れるのだ。毎日毎日自分の価値観を壊しては再構築していくような生活に心が耐え切れなくなると、拒否反応を示し始めるのだ。

嫌々仕事場に出動して、白い原稿用紙を睨んでいるのだが、やる気は湧いてこない。そのうちアシスタントたちが出勤してくるので、部屋の掃除でもさせて喫茶店でアイデアを考え始める。でも、場所を変えても、なにも出てこない。どこかで考えることを拒否しているのだ。夜になってもなにも出てこない。アシスタントを帰し、朝まで机の上に置いた白い原稿を見つめていた。ああ俺もこれで終わりがなあと、ただ原稿用紙を見つめていたのだ。

それを何日も何日も繰り返して、そしてついに、断れない数パーセントのものだけ残し、ほとんどの仕事を辞めてしまった。その後、毎日なにもせずじっとしたり、しばしば海外に出たりと、後から考えればハリハリのようなことをしていた。



いしかわ じゅん、1951年、愛知県生まれ。明治大学商学部卒業。漫画家として活躍する他漫画評論家でもあり小説、エッセイも執筆する。また俳優として舞台、映画、CMにも出演する。著書に『愛国』『薔薇の木に薔薇の花咲く』『いしかわ式』『漫画の時間』『鉄槌！』『業界の濃い人』『いしかわ世界紀行』など多数NHKみんなのうた8・9月放送「これってホメことば?」のキャラクターも描く。

半年ほど経ったころ、あんなに辛かった仕事を、もつ一度できるかもしれないという気がしたのだ。机の上に白い原稿用紙をどざりと積んでも、あまり苦しくはなかった。

元通りの楽しい原稿生活に戻ったのは、それでもまだ一年半くらい後だった。それからは仕事の幅を広げ、漫画を描くのと併行して、もともと書いていた文章の仕事を増やし、テレビに出たり映画に出たり、なるべく狭くて暗いところに入り込まない様にしたおかげで、また楽しい日々が戻って、20年近く経つ。

現在は、漫画の仕事はすいぶん減ってしまい、一番描いていたころの2割くらいだ。後はみんなそれ以外の仕事だ。それでも、白い紙を机の上に置いて、漫画を描いていくのは楽しい。下書きをしてペンを入れて消しゴムをかける。今はもう笑い出しはしないが、一番好きな楽しい時間だ。

ああ、ほんとに紙があつてよかった。

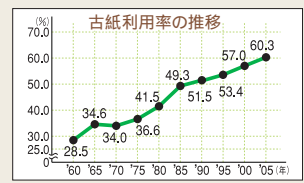
PAPER Q & A Vol.6

Q. 紙の原料で一番多いのは何でしょう?

A. 意外かもしれませんが、古紙です。
(古紙60.3%、パルプ39.6%、その他 0.1%)

紙はおもに木材などの植物繊維からできているので、新しい木材からつくられたパルプが一番多く使用されていると考えの方がいらしゃいます。しかし紙の原料の約6割は、その役割を終えた新聞、雑誌、段ボールといった古紙です。古紙利用率は、再生技術の向上に加えて、皆様の古紙利用製品に対する理解が深まったことなどにより、年々高まってきました。私たち製紙産業では、古紙のリサイクルは今後も社会的に推進すべき課題と考え、2010年度へ向けて古紙利用率を62%へ高める挑戦をはじめています。しかし、既に高い

水準にある利用率を上げていくのは簡単ではありません。分別回収や古紙利用製品の使用など、これからも皆様の一層のご理解とご協力をお願いします。



出典：紙/パルプ統計年報
古紙利用率(%)、紙・板紙を作るのに原料として古紙を使った割合

今回は11月2日号、出久根達郎さんです。